

特集

デビュー
60周年!

英詞で読み解く ビートルズの世界

1962年10月にデビューシングル「Love Me Do」を発表してから、今年でちょうど60周年を迎えるビートルズ。古今東西を問わず一番影響力のあるバンドといっても過言ではなからう。ビートルズの楽曲は、メロディやコード進行はもちろんのこと、歌詞も素晴らしい。ロックならではの反体制的なメッセージ色の濃い歌詞があれば、ラブ&ピースを謳った甘い歌詞ならぬ「歌詩」もある。ビートルズの歌詞の多くは易しい英語で書かれている。簡単そうに見えるが、正しく意味をとろうとするとかなり高度な英文法の知識を要する。この特集では、その内容を徹底解説。英詞を読み解いてビートルズの世界を堪能しよう！

執筆：畠山雄二、本田謙介、田中江扶

Ivan Keeman/Getty Images (p.45) / John Pratt/Getty Images (p.47) / Jayssan/Shutterstock.com (pp.46-47) / il67/Shutterstock.com (pp.48-57) / Liam.Jones@Shutterstock.com (p.50) / picdic/Shutterstock.com (p.52) / Randy Miramontez/Shutterstock.com (p.53) / Arzu Gokmen/Shutterstock.com (p.57)

JASRAC 出 2206959-201 JASRAC 許諾第 9026357001Y43128号

ビートルズとは

イギリスが生み出した2大発明品、それは「英語」と「ロック」であると言える。クイーンもローリング・ストーンズもレッド・ツェッペリンもイギリスが生んだロックバンドである。でも、忘れてはいけないのがビートルズだ。ビートルズは世界の音楽シーンを変え、今なお世界のミュージシャンに大きな影響を与えている。日本でも桑田佳祐や奥田民生などに大きな影響を与えている。奥田が手掛けたPUFFYの「これが私の生きる道」を聴けば一目瞭然、いや、一聴瞭然である。ビートルズを知れば世界の音楽はもとより日本の音楽のルーツを知ることができる。ビートルズは音楽の原点なのだ。

1962 レコードデビュー

10月にファーストシングル「Love Me Do」をリリースし、当時のUKチャートで最高17位を記録。ハーモニカが印象的な1曲。翌年のセカンドシングル「Please Please Me」で国内チャート1位を獲得し、イギリスでの人気を不動のものに。ただし、世界が彼らを知るのはもう少し先のこと――。

1966 来日公演

6月に初来日。武道館で3日間の公演を行った。武道館でライブをするのは今や当たり前のことだが、当時は「武道の場にチャラチャラしたミュージシャンが足を踏み入れるなんて！」と物議を醸した。ツアー中は厳重な警備体制が敷かれ、4人はほとんどホテルに軟禁状態。そんな中、ポールはこっそりホテルを抜け出して皇居前広場を散歩している。

1970 解散

ポールがビートルズ脱退を宣言。ビートルズの解散が公にされた。解散に関してポールが起こした訴訟により、メンバー間の亀裂は深まった。以後、再結成されることはなかった。活動期間はレコードデビューから数えて約8年と短い、今なお世界中のミュージシャンに影響を与え続けている。

Beatles^{年表} Chronology

1964 アメリカ席卷

シングル「I Want to Hold Your Hand」が2月にUSチャートで初の1位を獲得。満を持してアメリカへ。当時、イギリスのバンドがアメリカで人気を博すのは、前代未聞の出来事だった。他にもイギリスのファッションや音楽など一連のポップカルチャーがアメリカで大流行。この現象はBritish Invasion（イギリスの侵略）と呼ばれた。

1968 インド文化に傾倒

4人は冥想修行のためインドへ。ここで得たインスピレーションは曲作りにも影響を与えた。西洋の価値観に違和感を抱いていた若者たちが思想やライフスタイルなどの面でインドへと意識を向けるきっかけにもなった。